

「詳説 物理化学Monographシリーズ」(中巻)第1版第1刷 加筆・変更点

加筆・変更箇所	加筆・変更前	加筆・変更後
p. 12-5, 式(30)	$-\sqrt{-\frac{\mu r_0 r}{2C(r_0 - r)}}$	$-\sqrt{-\frac{\mu r_0 r}{2C(r_0 - r)}} dr$
p. 12-5, 下から第7行	式(32)	式(33)
p. 12-7, 第5行	5.97×10^{27} kg	5.97×10^{24} kg
p. 12-7, 第6行	7.34×10^{22} kg	7.35×10^{22} kg
p. 12-7, 下から第3行	1.32×10^4 s = 3 hr 40 min	4.16×10^5 s = 115 hr 38 min
p. 12-7, 下から第2行	3 hr 40 min	115 hr 38 min
p. 13-25, 第16, 18行	M_L	M_S
p. 13-25, 式(81), (82)-1, (83)	M_L	M_S
p. 13-27, 下から第6行	M_{L_1}	M_L
p. 13-38, 式(127)-2		(全体を $\sqrt{2}$ で割る)
p. 13-42, 脚注1	I^2	I_i^2
p.13-47, 式(169)-2		(スピン関数 α をすべて削除)
p. 13-54, 式(192)	$ \pi^- \alpha \pi^+ \beta \sigma \alpha $	$- \pi^- \alpha \pi^+ \beta \sigma \alpha $
p. 13-54, 式(194)	σ	σ_v
p. 13-57, 式(221)-3		(削除)
p. 13-57, 式(222)-2		(次式に置き換える) $= \langle \pi^- \pi^- g_{12} \pi^- \pi^- \rangle + \langle \pi^- \sigma g_{12} \pi^- \sigma \rangle$ $+ \langle \pi^- \sigma g_{12} \sigma \pi^- \rangle + \langle \pi^- \sigma g_{12} \pi^- \sigma \rangle$
p. 13-58, 図3	($a^4 \Sigma^-$ のエネルギー) 0 cm^{-1}	5844 cm^{-1}
p. 13-60, 第11行	をを	を
p. 13-60, 下から第4行	(143)	(142)
p. 14-1, 下から第5行	理解には	理解に
p. 14-3, 図1	ν_r	ν_r
p. 14-4, 図2	ν_r	ν_r
p. 14-5, 式(26), (27)	$\bar{\phi}$	$\bar{\theta}$
p. 14-7, 式(37)	(積分の中の) ν	ν'
p. 14-7, 下から第5行	(33) \rightarrow (34)	(33) \rightarrow (34) \rightarrow (35)
p. 14-9, 第2行	$\Psi(x)$	$\Psi(x)$
p. 14-9, 式(60)		(右辺削除)
p. 14-9, 第7行	$\Psi(x)$	$\Psi(x)$
p. 14-10, 式(66)	(2行目末尾) ν'	ν
p. 15-4, 第3行	波線	破線
p. 15-8, 図1タイトル	波線	破線
p. 16-13, 下から第3, 4行 (計3箇所)	$\partial H(q, Q)$	$\partial H(r, Q)$
p. 17-20, 下から第7行	$R \ln V$	$nR \ln V$
p. 17-20, 下から第6行	$-R \ln p$	$-nR \ln p$

加筆・変更箇所	加筆・変更前	加筆・変更後
p. 17-24, 第10行	p_0	p°
p. 17-30, 式(107)-3		(削除)
p. 17-31, 脚注6	相の間の混合はないので, 混合エントロピーが反応進行の推進力にならない。したがって, 条件によって, 始原系あるいは生成系	相の間の混合がないので, 始原系あるいは生成系
p. 17-43, 第1行	3 mol混合	3 molの混合
p. 17-43, 第3~4行	化学種はは	化学種は
p. 17-59, 式(240)右辺第2項	$\left(\frac{\partial f}{\partial y}\right)_x \frac{dx}{dt}$	$\left(\frac{\partial f}{\partial y}\right)_x \frac{dy}{dt}$
p. 17-69, 下から第2行	化学ポテンシャルと	化学ポテンシャルを
p. 17-74, 第2行	全圧 T	温度 T
p. 17-91, 第7行	式(56)	式(55)
p. 17-91, 脚注3		(以下を追記) 25 °Cでの平衡水蒸気圧0.0317 bar(=3.17 kPa)以上の水蒸気は存在できないが, ここでは仮想的な状況で考える。
p. 17-92, 脚注1	-273.14	-237.13
p. 17-96, 脚注2	1.0008	1.008
p. 17-117, 脚注1	波線	破線
p. 17-125, 下から第3行	式(548)	式(536)
p. 17-128, 下から第8行	式(548)	式(561)'
p. 17-129, 第7行	式(548)	式(561)'
p. 17-132, 脚注3	あろう, 原理は	あろうが, 原理は
p. 17-140, 第1行	第2項は	第2項の[]内は
p. 17-140, 式(633)-1	$-a\xi \ln(1-\xi)$	$-a \ln(1-\xi)$
p. 17-140, 式(633)-2	$-a\xi \ln(1-\xi)$	$-a \ln(1-\xi)$
p. 17-143, 下から第7行	第2項は	第2項の[]内を
p. 17-143, 下から第6行	と記すと	で表すと
p. 17-146, 下から第2行	第2項は	第2項の[]内は
p. 17-152, 式(693)	$\mu^\circ(T, p)$	$\mu^\circ(T, p^\circ)$
p. 17-152, 式(693)	$\bar{A}^\circ(T, v)$	$A^\circ(T, v^\circ)$
p. 17-154, 文献9	1994年	1993年
p. 18-2, 脚注6	Boltamann	Boltzmann
p. 18-6, 脚注6	$\ln G_k$	$\ln W_k$
p. 18-27, 下から第3行	振動がなく運動	移動がない運動
p. 18-32, 第4~5行	式{\いD181}	式(4)
p. 18-32, 第18行	MB統計とBE統計が同じ数(3)を与えるにもかかわらず,	(削除)
p. 18-35, 第8行	変形する十すると	変形すると

加筆・変更箇所	加筆・変更前	加筆・変更後
p. 18-37, 脚注1	1992	1912
p. 18-44, 式(134)-1	$d \ln G$	$d \ln W$
p. 18-44, 第6, 8行	$\ln G$	$\ln W$
p. 18-45, 第8行	式(135)	式(143)
p. 18-45, 第12行	独立ではなかったが	独立ではなくなったが
p. 18-68, 式(277)	$\left[\frac{\partial}{\partial N} \left(\frac{q(V, T)^N}{N!} \right) \right]$	$\left[\frac{\partial}{\partial N} \left(\ln \frac{q(V, T)^N}{N!} \right) \right]$
p. 18-77, 式(328)	$-RT \ln v$	$-RT d \ln v$
p. 18-78, 第2行	式(8)	式(7)
p. 18-79, 第4行目	微視状態小数	微視状態総数
p. 18-82 (8箇所)	G_m	W_m
索引, p. 6, 右カラム(3箇所)	ギブズ	ギブズ

2021年9月29日